

参考資料－3

第40回 維持管理・環境管理専門委員会
2020年8月12日

ドクニンジンについて

ドクニンジンについて

●太郎右衛門自然再生地内において、有毒植物のドクニンジンが確認されたため、報告します。



※航空写真は2020.6.2-3撮影



【ドクニンジン】

ヨーロッパ原産。中国、北アフリカ、北アメリカに帰化し、日本では全国的に拡大しつつある。

草丈80～180 cmになる二年草。葉は2～3回羽状復葉。茎、葉柄に紫紅色の斑点があり、植物全体に光沢がある。花期は7～9月。大形の復散形花序に白色五弁の約3mmの小花をつけ、花の先端は内に曲がり、その中の1枚だけが大きい。

全草、果実有毒成分を含み、食べると悪心、嘔吐、流涎、昏睡を起こす。

※厚生労働省HPより https://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/higher_det_14.html